

日外協のプラットフォーム

限られたメンバー内だからこそその濃密な情報交換が可能な「グループ研究会」
各グループ研究会のリーダーや参加者に聞いた



海外安全グループ研究会

東京・大阪・名古屋の3地区、計5グループ×約20社で100社近くが参加。それぞれ年4回(計20回)開催。「この場限り」のルールに基づき、海外安全管理に関する各社の課題やリスク事由への対応など討議。他社事例や助言などを得ることができ、社外ネットワークも形成できる貴重な機会。

各グループメンバーのコメント

※円内は所属グループと職種

東京 A
卸売業

同じ悩み事や苦勞を抱える同士で顔が見える関係を構築できていることに加え、懇親会等で人柄を理解し互いを信頼できているからこそ、つい本音をしゃべってしまうことも多々ある。

東京 A
製造業

先進的な仕組みや活用ツールの情報を共有できる点など、社内だけでは得られない情報は大変参考になっている。海外各地でのリスク案件が発生した際にメンバー間のオン・オフでの意見交換や情報共有をすることで、社内での対策を決定する際の参考情報にできるのは大きなメリット。

東京 B
サービス業

他企業の先進的な取り組みを学べることに加え、社内では先例のないリスク案件が発生した際に、他企業の方針・取り組みが参考になるため大変助かっている。

東京 B
サービス業

様々な業種のリーディング企業の海外安全担当者と人的ネットワークを構築できる点が大きな魅力。ある意味、同志、戦友であり、本音で意見交換できる。他社のベストプラクティスを自社の活動のヒントとして取り入れている。外務省や民間の有識者を招いての講演も学びが多い。

東京 C
製造業

戦争、デモ、暴動、自然災害などが頻発し、当該国への渡航可否について自社だけでは判断がつかないケースが増えている昨今、参加企業との情報交換は大変有益な機会となっている。今後も最大限活用して迅速な対応につなげていきたい。

東京 C
卸売業

それぞれの経験や知識を共有し、見える化を図ることで、個社では出てこない対応策や有事の心構えができる。何かあれば相談できるというメリットが大きい。5つの研究会間の交流なども期待したい。

中部
製造業

他社の安全対策の取り組みについて、研究会のネットワークを通じて照会し、教わることも。同業種の企業も多数参加しており、当社には各社の取り組みが有意義な参考事例となっている。

中部
製造業

グループや業界を超えた企業間の意見交換を可能にし、貴重な知見を得る機会。特に製造業では、海外拠点の規模が大きいため、研究会を通じて他社をベンチマークすることは適正な対応を検討する上で重要な役割を果たしている。

関西
製造業

各社の事例紹介や意見交換を通じて共通の課題に対する解決策を見だし、会社や業界を超えて情報交換できることに意義を感じている。また、悩み相談、セカンドオピニオンの入手にも非常に有効な場だ。

関西
製造業

業界・業種などを超え、各社の先進的な取り組み事例の共有や影響度の高い海外リスク事案などについて議論検討などを行い、その取り組みのさらなる強^{きょうじん}強化の推進に役立っている。



国際人事グループ研究会

国際人事実務担当者対象。東京と関西でそれぞれ年4回開催。海外派遣者、国際間異動者の処遇、税社保の扱い、帯同家族へのサポート、海外勤務の多様化への対応、グローバル人材育成、海外での労務管理などに関する情報交換や、外部専門家からのアドバイスを聞く場となっている。

東京グループリーダーに聞く

「井戸端会議」で情報交換



アズビル(株) 人事部国際人事グループ
グループマネージャー

木村 渉 氏

国際人事は人事の仕事の中でも“垂流的”な存在ゆえ、社内に相談できる相手が少ない一方で、本社の経営層のプレーンとしての役割も担っていることから、常に冷静な示唆や提案を提供するための情報収集が欠かせません。

しかし、この領域は統計資料が少なく、エビデンスには不十分です。『労政時報』の統計やコンサル会社の調査レポートは参考にしますが、同じ環境下にある他社の実務者から情報が得られる国際人事グループ研究会は極めて重要なプラットフォームです。この研究会は、文献やコンサルが提示する一般論では解決できない個別事情や深層の課題について、参加者同士が

事象と仮説を行き来しながら答えを紡いでいく「井戸端会議」です。30人程度のコミュニティでは、肌感覚での相談や情報交換が行えます。それができる場合は日外協だけでなく、実務に精通したEY税理士法人の藤井 恵先生にこの研究会でお会いできることを魅力に感じているメンバーも多いようです。参加企業の規模やレベルは様々ですが、多様な価値観に触れることができ、自分の視野も広がります。

研究会での議論の出発点は、国内勤務者間や異なる任地の海外勤務者間との処遇(給与・福利厚生)について、可能な限り公平性を保った上で、いかに自社の独特色を出していくかという点にあります。他方、昨今の働き方の変容への対応なども求められています。常に“古くて新しい”議論を重ねているこの研究会は、まさに情報戦とも呼べる国際人事の業務において、貴重な情報収集の機会になっています。



海外健康・医療グループ研究会

会員企業の医療職と非医療職で構成。「海外健康・医療セミナー」の内容の深掘りをメインに、自由テーマで開催している。地域制で分割せずに1つのグループ研究会に全国のメンバーが一堂に会し、テーマに沿った情報交換と課題の共有を活発に行っている。

研究会メンバーに聞く

様々な視点を獲得の唯一無二の機会



トヨタ自動車(株) 安全健康推進部
産業医学グループ 産業医

柘植 彩花 氏

海外健康・医療グループ研究会では毎回、必要にして十分な情報と多くの気づきを得て、大変勉強させていただいております。

研究会のテーマは、直近の海外健康・医療セミナーでの講演内容の深掘りです。経験豊富な先生方による最新の海外医療情勢や法律・裁判例に基づいたセミナーを参考に、当社ではまず至らない部分や想定リスクを挙げ、予防策と具体的な目標について徹底的に討論しています。

その後に行われる研究会(年4回開催)で課題の発表や情報交換を行い、修正した計画を実践に落とし込み(1~2カ月)、そこで生じた課題を次の研究会で再相談して解決のヒントを得ています。セミナーと研究会のセットで

OODA(観察→方向づけ→意思決定→行動)ループを回すことで、当社では昨年7つ、今年3つ新たに海外健康施策を開始しました。

参加企業は、健康管理に積極的に取り組んでいるところ、課題に気づき始めたところなど多様で、自由討論時間にはざっくばらんに相談ができることから、横のつながりも強くなってきたと感じています。私自身、司会進行役を務めているので、お声をかけていただくことが増えました。私たち医療職だけでなく、人事部の方も多く参加され、様々な視点に立てる唯一無二の機会です。今後も末永く続けてほしいです。

将来的には、この研究会が中心となって、各企業が医療巡回等で得た情報を集約し、医療機関の定量的な評価ができる基準づくりや海外赴任者に提供する情報の整理をしていただけることを期待します。さらに海外医療視察団を派遣して、情報を常にアップデートするような仕組みをつくってくださるとありがたいです。